

科目名 家族への支援の視点が必要な事例

事例の概要

◆生活歴（職歴）・要介護支援に至るまでの生活状況等

6人兄弟の長女として長崎県に生まれる。妹は早逝し男ばかりの兄弟の中で、たった一人の女の子として両親・兄弟に大事にされて育った。高校卒業後、叔父の紹介で神戸の外資系の会社に事務員として勤めた。経理を担当し、優秀な事務員であったとのことである。

会社在职中に年下の夫と知り合い結婚する。結婚後、子供はおらず、夫婦で趣味を大切に生活をしていった。

42歳頃に関節リウマチを発症し、徐々に骨破壊及び変形が進行していった。47歳頃に両股関節と左膝関節の人工関節置換術を行い、その直後に会社を退職した。その後しだいに四肢の複数の関節の変形と骨破壊が進み、松葉杖歩行となったことから、75歳頃に本人の出身地である長崎県に転居し、本人が暮らしやすいように住宅改修を行い、しばらく平穏に暮らしていた。しかし78歳頃に左下顎骨の壊死で定期的な歯科受診が必要となり、夫の運転する車で週1回通院していた。

そんななか、6カ月前に右小脳梗塞を発症し緊急入院した。治療を受け状態は安定したものの、ADLが低下してほぼ全介助の状態となり、在宅介護が困難となったため、老人保健施設に入所となった。

老人保健施設に入所後は、再び松葉杖で歩けるようになって家に帰ることを自らの目標に掲げ、リハビリテーションに取り組んだ。しかし、思うようには機能が向上せず、また小脳梗塞の後遺症によりめまいが頻発したこともあり、「このままここには動けなくなる。」との発言が多くなり、強く在宅生活を希望するようになった。夫は、「介助無しでは立つこともできない今の状態では、家での暮らしは困難。」との判断から施設入所の継続を望むが、最後は本人の強い希望に根負けしたかたちとなった。Aさんの退所にあたって夫からは「妻の介護に全力を出します。」との言葉が聞かれた。夫が家事と介護に追われる生活が始まる。

基本情報に関する項目

受付年月	令和5年6月
受付担当者	介護支援専門員
受付経路	Aさんは在宅で夫の介護を受けながら暮らしていたが、小脳梗塞のために入院し治療を受ける。状態は安定したがADLの低下のために在宅介護が困難となる。一時期老人保健施設に入所しており、在宅で生活したいとの本人の強い希望があり、老人保健施設の介護支援専門員から連絡があり、退所準備からかかわる。
氏名・性別・年齢・住所・電話	Aさん 女性 80歳
家族状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夫は健康であり、家でパソコンを利用して建築図面などをひくアルバイトをしている。 ・近隣に兄家族がいるが、高齢であり、あまり行き来はない。 ・子どもはいない

生活歴	<p>6人兄弟の長女として長崎県に生まれる。妹は早逝し男ばかりの兄弟の中で、たった一人の女の子として両親・兄弟に大事にされて育った。高校卒業後、叔父の紹介で神戸の外資系の会社に事務員として勤めた。経理を担当し、優秀な事務員であったとのことである。</p> <p>会社在职中に年下の夫と知り合い結婚する。結婚後、子供はおらず、夫婦で趣味を大切に生活をしていた。</p> <p>42歳頃に関節リウマチを発症し、徐々に骨破壊及び変形が進行していった。47歳頃に両股関節と左膝関節の人工関節置換術を行い、その直後に会社を退職した。その後しだいに四肢の複数の関節の変形と骨破壊が進み、松葉杖歩行となったことから、75歳頃に本人の出身地である長崎県に転居し、本人が暮らしやすいように住宅改修を行い、しばらく平穏に暮らしていた。しかし78歳頃に左下顎骨の壊死で定期的な歯科受診が必要となり、夫の運転する車で週1回通院していた。</p> <p>そんななか、6カ月前に右小脳梗塞を発症し緊急入院した。治療を受け状態は安定したものの、ADLが低下してほぼ全介助の状態となり、在宅介護が困難となったため、老人保健施設に入所となった。</p> <p>老人保健施設に入所後は、再び松葉杖で歩けるようになって家に帰ることを自らの目標に掲げ、リハビリテーションに取り組んだ。しかし、思うようには機能が向上せず、また小脳梗塞の後遺症によりめまいが頻発したこともあり、「このままここには動けなくなる。」との発言が多くなり、強く在宅生活を希望するようになった。夫は、「介助無しでは立つこともできない今の状態では、家での暮らしは困難。」との判断から施設入所の継続を望むが、最後は本人の強い希望に根負けしたかたちとなった。Aさんの退所にあたって夫からは「妻の介護に全力を出します。」との言葉が聞かれた。夫が家事と介護に追われる生活が始まる。</p>
生活状況	<p>8時頃：起床 23時頃：就寝する。</p> <p>ベッド上の生活が主である。</p> <p>ベッドの周りにテレビ・CDラジカセ・ポータブルトイレが設置してある。</p> <p>居室は日当たりがよく、台所の横にあり、夫の作業部屋とも間続きで、常に夫の動きがわかる。</p> <p>携帯電話は手の届くところにおいてある。</p>
保険・他法情報	厚生年金
障害高齢者の日常生活自立度	B2
認知症である高齢者の日常生活自立度	自立
主訴	<p>手のしびれなどあり思うように体は動かないため、夫に迷惑をかけることがあるとは思いますが、家で暮らしたい。ときには大きな声で歌を歌えば気も晴れると思う。前のように松葉杖を利用して動けるようになりたい。</p>
認定情報	要介護4（令和5年5月1日～令和6年4月30日）
課題分析理由	退所時

アセスメントに関する項目

健康状態	関節リウマチにより内服治療中である。全身の痛みがある。頸椎症のために頸椎保護のカラーを装着している。上肢の痺れ感がある。小脳梗塞後遺症によるめまいがあり、急な体動は避けるようにいわれている。左下顎骨壊死のため週1回、歯科にて患部の洗浄治療を行っていたが、今は年に1回経過観察のために受診をするように指示がある。
ADL	両手指関節が変形しており、軽い物なら両手で支えて持つことは可能である。両下肢の筋力低下のために一人での立ち上がりはできない。 <ul style="list-style-type: none"> ・移乗：体位をとり支えながら移乗する。 ・移動：リクライニング車いすを使用し、全介助で行う。 ・食事：自助具を利用し、ある程度は自力で摂取が可能である。 ・排泄：尿意・便意があり、体調を見て介助でポータブルトイレを使用している。体調不良時は紙おむつに排泄する。夜間は紙おむつを使用している。 ・更衣：全介助で行う。 ・入浴：寝たままの浴槽で入浴している。
IADL	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理：収支は把握しており、夫に頼んで預貯金の出し入れを行う。 ・買物：夫が行っているが、通院のときに病院の売店に行き、欲しい物を購入することもある。 ・掃除：行えないので、夫が身の回りの整頓をする。 ・服薬管理：夫が準備し服薬介助を行うが、服薬の内容は把握している。
認知	長谷川式簡易知能評価スケール：28/30点
コミュニケーション能力	聴力・視力ともに問題なし。
社会との関わり	75歳の頃、本人の出身地である現在地に転居してきた。古いなじみの関係はあるが、転居時は松葉杖歩行であったため社会交流は積極的に行われていなかった。夫は近隣の人たちに会えばあいさつをする程度の関係で、特に親しくしている人はいない。
排尿・排便	便意があり、体調がよければ介助でトイレまたはポータブルトイレを使用している。体調不良時は紙おむつに排泄し、夜間は紙おむつを利用している。
じょくそう・皮膚の問題	なし
口腔衛生	全て自分の歯である。毎食後歯ブラシを両手で持って歯磨きを行う。左下顎骨壊死は年1回の経過観察のみである。
食事摂取	セッティングしてあれば、自助具を利用し、ある程度は自力摂取が可能である。途中から夫が介助することもある。主食は、本人が食べやすいように小さなおむすびにしてある。
行動障害	(精神面)感情失禁が見られ、急に泣き出したり大声を上げたりすることがある。夫に迷惑をかけないように頑張りたいという気持ちでいるが、将来に対する不安は大きい。
介護力	介護者は夫のみである。介護の支援者もいない。

居住環境	海辺の道から細い坂を20mくらい上がったところにある平屋で居室は台所の横にあり日当たりがよく、ベッドからはのどかな海が眺められる。松葉杖を利用して歩いていた頃に住宅改修をしている。玄関の上がり框はスロープを設置し、屋内はバリアフリーでトイレ・浴室には手すりを設置している。居室の続き間は夫の作業室で、常に夫の姿が見える環境である。家の周りは畑で、隣の家とは離れている。
特別な状況	75歳頃に当地に家を求めて転居してきた。もともと本人の出生地であるが、長年にわたり都会で暮らしていたために、地域の慣習になじめず近隣との交流はほとんどない。現在兄弟のみと交流しているが、兄弟も高齢であり本人たちを介護面で支えることは困難である。
家屋について	<p>ベッド上の生活が主である。</p> <p>ベッドの周りにテレビ・CDラジカセ・ポータブルトイレが設置してある。</p> <p>居室は日当たりがよく、台所の横にあり、夫の作業部屋とも間続きで、常に夫の動きがわかる。</p> <p>携帯電話は手の届くところにおいてある。</p> <p>平屋で居室は台所の横にあり日当たりがよく、ベッドからはのどかな海が眺められる。松葉杖を利用して歩いていた頃に住宅改修をしている。玄関の上がり框はスロープを設置し、屋内はバリアフリーでトイレ・浴室には手すりを設置している。居室の続き間は夫の作業室で、常に夫の姿が見える環境である。家の周りは畑で、隣の家とは離れている。</p>